

大和野菜の生産振興

要約

大和高原地域では冷涼な気候を活かし、大和野菜の大和まな、大和寒熟ほうれん草等の生産を推進。大和まなでは作付者の増加による生産量確保や市場への出荷量事前通知による販売単価向上を図った。寒熟ほうれん草では災害に強い生産体制構築に向け施設の風雪害対策の啓発等を行った。

現状(背景)と課題

○大和まな

- ・時期により、出荷量にバラつき
- ・生産量少なく、供給が不安定
- ・需要拡大が不十分、単価伸び悩み

○寒熟ほうれん草

- ・気候の影響で寒熟ほうれん草出荷率低下
- ・風雪害(台風・降雪)により生産施設が倒壊



目標

大和まな

- ・400ケース超 4ヶ月/年
- ・4,500ケース/年(4kg/ケース)
- ・ハウス(2a)1作粗収益 80千円

寒熟ほうれん草

- ・寒熟ほうれん草出荷率 80%
- ・風雪害対策強化ハウス数 10棟

活動内容

○大和まな

- ・対象者：JAならけん農産物生産・流通部会 蔬菜部会 大和高原大和まな部会
- ・作付面積拡大のために新規就農者、若手農業者等4名に対し、作付誘導及び試作栽培指導を実施。
- ・出荷量の事前把握のため、播種・生産状況について圃場巡回を通じて確認し、JA担当者と情報を共有。
- ・出荷市場を訪問し、市況情報の入手、現状の課題や販売対策についての意見交換を実施。
- ・業務需要開拓に向け、首都圏レストランへアンケート、大手量販店や学校給食センターと意見交換を実施。

○寒熟ほうれん草

- ・対象者：宇陀市菟田野、曾爾村、御杖村のJAならけん各ほうれん草部会
- ・風雪害対策として、既存ハウスにタイバー、クロスバーを取り付け補強した展示圃を3ヶ所設置。併せて講習会や生産者への資料配布により対策を周知。
- ・生産者巡回を通じて長期気象予報の情報提供を行い、寒熟ほうれん草の栽培管理について指導。
- ・更なる生産拡大に向け、大型トンネルを利用した低コスト栽培の導入を検討。

成果

- ・(大和まな) 市場への出荷量事前通知等により単価向上を図ったが、単価の月変動が大きく結果的に作付面積は減少、また、直売所等市場外流通の増加傾向もみられ、目標を下回った。
- ・(寒熟ほうれん草) 風雪害対策の周知により既存ハウスへ補強資材を設置する生産者が増加。また長期予報の情報提供により播種時期を遅らせる生産者が多く、出荷率は目標を下回ったが前年並みは確保した。



(新規就農者への大和まな作付推進)



(風雪害対策に関する講習会)

東部農林振興事務所農業普及課(担当:平岡・小林・小島)
「チャレンジ品目支援事業」
「マーケティング・コスト戦略に基づいた農業の振興」

普及活動のポイント

○大和まな

- ・市場への安定出荷・有利販売に向け、普及が中心となった生産状況の把握とJA・市場への情報提供。
- ・県関係課、宇陀市学校給食センター関係者等と連携し、学校給食・業務対応等、新たな販路開拓を検討。

○寒熟ほうれん草

- ・展示圃を活用した講習会を開催し、風雪害対策を効果的に周知。
- ・長期の気象予報を巡回・講習会を通じて情報提供し、適期での栽培管理を指導。

対象の変化

- ・(大和まな) 新規作付誘導において、栽培期間が短い特長を活かして既存品目との輪作体系に導入。学校給食の対応に合わせた計画生産の実施。
- ・(寒熟ほうれん草) 風雪害対策の重要性を啓発したことで、既存ハウスへの補強資材の導入が進んだ。生産者からの発案で大型トンネルでの試験栽培を実施。

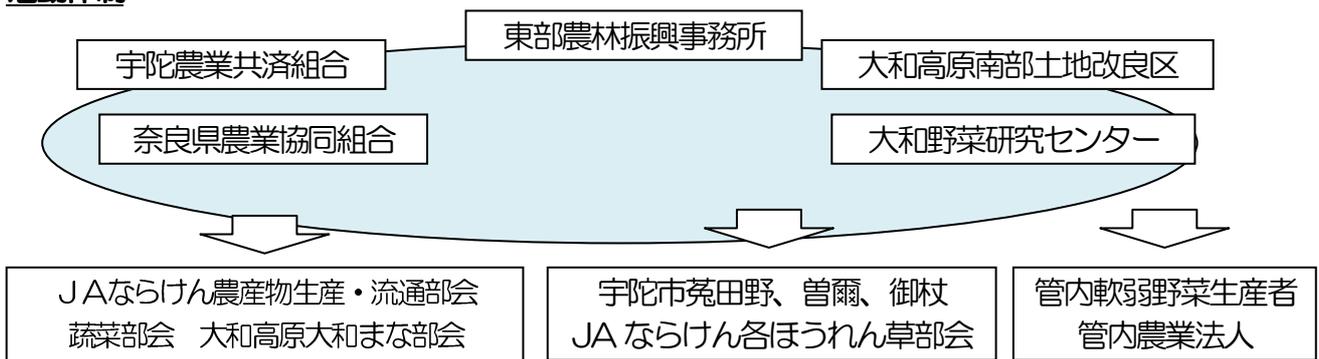
対象者からのコメント

- ・(大和まな) 栽培期間の短さ、収量性等の生産上の利点は大きいと感じている。単価が不安定な時期があり、作付拡大の障害になっていることから今後も販売や消費の場への働きかけ等の支援を願う。
(大和高原大和まな部会役員)
- ・(寒熟ほうれん草) 安定供給可能なほうれん草産地を目指すうえで、風雪害対策の重要性を再認識。今後も寒熟ほうれん草の生産振興に向け協力いただきたい。(曾爾村ほうれん草部会員)

これからの活動ビジョン

- ・(大和まな) 単価の向上に向けた出荷量事前把握等の活動を継続するとともに、新規作付者を対象とした講習会の実施、学校給食をはじめ加工業務用食材としての需要開拓及び生産体制の整備を図る。
- ・(寒熟ほうれん草) 風雪害対策の継続的な周知による安定生産に加え、大型トンネルを活用した栽培方法を確立し、生産拡大を目指す。

活動体制



用語説明

〈タイバー、クロスバー〉

既存ハウスのアーチパイプに補強資材(直管パイプ等)を取り付けることで、強風・降雪による被害軽減を図る。

